土屋　敬（つちや　たかし）情報紙　　　　発行日　：　2017年3月11日臨時発行

TT Times 2017.3.11

あの日から６年
未来へ向かい　心ひとつに

３月１１日、東日本大震災から6年を迎えました。死者・行方不明者合わせて2万人という大災害の影響は、6年経った今も、被災地に重くのしかかっています。

先日、復興庁から発表された情報では、現在も12万7千人もの方々が避難生活を余儀なくされているとのこと。 復興住宅が建ち、道路も拡張整備されたとはいえ、多くの方々の生活は震災前の状態に戻っていません。本当に考えさせられます。

今年も、奈良の薬師寺が主催し、石巻市で開催される東日本大震災災没者供養の法要に参列し、供養の写経を行いたいと思います。私たちに出来ることは何なのか。震災から6年経った今こそ、考えてみてはいかがでしょうか。

まだまだ6年、　未来へ向かい
心一つになりたいものです。

目次：

季節の祭事　：　蛤のお吸い物　1
生活の豆知識　：　醤油チュルチュル　1
特別コラム　：　おにぎりとみそしる　2
心の栄養をあなたに　：　「　ファミレスに行きたい　」　3
食いしん坊のひとり言　：　缶つま　4
おすすめグルメ情報　：　おにおんとまと　4
あとがき　4

【季節の祭事：　蛤のお吸い物　】

桃の節句のひなまつりやお食い初めなど、お祝いの席には欠かせない“蛤のお吸い物”。どうして蛤のお吸い物をひなまつりに食べるのか、ご存知ですか？ 昔から二枚貝は女の子を意味し、ひなまつりに貝はつきものでした。蛤は二枚貝の中でも二枚の貝がぴったりと合い、他の貝殻とは決して合いません。そこから、ぴったり合う相性の人に出会う、良縁に恵まれ夫婦円満になると言われ、「女性の美徳や幸せ」につながると考えられてきたのだそうです。

生活の豆知識　：「　醤油チュルチュル　」

皆さん、「醤油チュルチュル」と聞いてピンときますか？　私は初めて耳にした時、醤油をストローでチュルル～っと吸うものだとイメージしてしまいました。 会社の女性スタッフに聞いたところ「ゼリー状の醤油ですか？」との回答。今は、粉末の粉醤油も大人気なだけに、ゼリー状の醤油があってもおかしくないかもしれません。 この「醤油チュルチュル」、実は「手動式石油ポンプ」のことなんです。今から60年前、奇抜な発明で知られるドクター中松氏が中学生の時に特許を出願！　驚きですよね･･･。 今は電動式が主流のようですが、今でもホームセンターへ行くと「手動タイプ」も沢山売られております。特許って、すごいことなんですね。 ところで、「醤油チュルチュル」と同じように、その商品名からは想像もつかないような正式商品名は、他にも沢山あります。「うまい！太い！大きい！」と聞いて何の商品か、わかりますか？「Umai！Futoi！Ookii！」とローマ字に直すと分かり易くなります。そうなんです、あのカップ焼きそばの正式商品名は「うまい！太い！大きい！」なんだとか･･･。てっきり未確認飛行物体（UFO）のことだと思っておりました。その他にも、子供たちが大好きな「ガチャガチャ」・「ガチャポン」の正式名称は、「カプセルトイ」です。ちなみに私が子供の頃（山形市漆山では）は、「Pカップ」と言っておりました。確かにカプセルに入ったオモチャ（トイ）ですね･･･。 他にも楽しく＆意外な正式商品名があるかと思います。ご存じの方は、ぜひ教えてくださいね。 次号でご紹介したいと思います。

ソニー生命保険株式会社
仙台ライフプランナーセンター第2支社
ライフプランナー　土　屋　　敬
〒983-0852仙台市宮城野区榴岡4-2-3

特別コラム ： 東日本大震災「 おにぎりとみそしる 」

読者のTさんから、この作文の存在を教えていただきました。

東日本大震災の影響で、福島県から埼玉県へ避難していた小学4年生の女の子が書いた作文。

ご自宅は、福島第一原子力発電所から8キロの警戒区域内にあり、ご家族と共に避難していたそうです。

何度、読んでも泣けました。 少し前のものですが、たくさんの方に届けたいので、ご紹介させていただきます。

－－

【おにぎりとおみそしる】

小さな白いおにぎりと具のないおみそしる。

これは、わたしにとって、わすれる事のできないごはんです。

わたしは、東日本大しんさいで、自分の家にいられなくなり、ひなん所で生活していました。

その時の食事の内ようです。

それまでのわたしは、おやつを食べて、食事の時には、テーブルにはたくさんのおかずがあって、食後には、デザートまでありました。それが、あたり前だと思っていました。

とつぜんのさいがいを受け、ひなん所で生活をしてみて、わたしが食べていたものが、とてもめぐまれていた事に気が付きました。

何日間も、おにぎりとおみそしるだけを食べていましたが、ふしぎとあれが、食べたい、これが、食べたいとは、思いませんでした。

おなかがすいて、食べる事ができることだけで、うれしかったからです。

白いおにぎりから、中に梅ぼしが入ったおにぎりになった時は、とてもうれしかったです。

ひなん所から、東京にいどうした時に、はじめて、おかずのついたごはんを食べました。

弟が大好きな野菜を見て、「食べていいの。」 と聞きながら食べていました。とても、うれしそうでした。

今もまだ、自分の家には帰れないけれど、テーブルには、わたしの好きな食べ物がたくさんならびます。

季節のフルーツもたべられるようになりました。

ひなん所で、テーブルも無くて、おふとんをかたづけて、下を向いて食べた小さなおにぎりと具のないおみそしるの味は、絶対にわすれません。 こまっているわたし達にごはんを作ってくれた人達の事もわすれません。 ひなん所にいた時は、あまりわらう事ができませんでした。 でも、今は、わらってごはんを食べています。つらい事やこわい事もたくさんありました。今は、ごはんを食べて、おふろにはいって、おふとんにねむれる事が、とてもうれしいし幸せです。

これからも、食べ物をそまつにしないで、楽しくごはんを食べていきたいと思います。（全文）

－－

大変な状況で、余震におびえながらも、周りの方への感謝を強めていく姿が、深く、深く心に響きました。

避難生活を送る方は、今もなお12万7千人（平成29年1月31日時点/復興庁）。

「1万8千人が亡くなられた一つの事件」とひとくくりにせず、

「たった一人の人が亡くなられた事件が、1万8千件」

「たった一人の人が、当たり前の日常を失った事件が12万7千件」と、捉えてみる。

そう思うと、その一つひとつの重みが、より一層感じられます。

そしてもうひとつ。私たちにできることは、毎日やるべきことを、淡々とこなすこと。

誰もがやがて亡くなるのだから、それを受け入れ、その限りの日まで、精一杯生きていきたいですね。

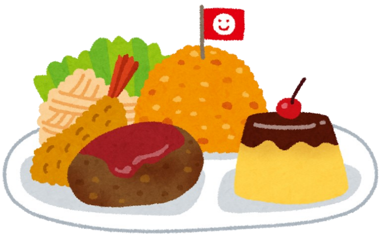
心の栄養をあなたに　：「　ファミレスに行きたい　」

ある4人家族がいました。30代の夫婦と2人の兄弟。 1人は10歳、1人は8歳でした。
ごく平凡な家族なのですが、10歳のお兄ちゃんは、重度の食物アレルギーを持っていて、食べ物を好きに食べられないという状態でした。そんなある日、弟が学校でいじめられて帰ってきました。母親は驚いて理由を聞くと「僕だけファミレスに行ったことがないからって仲間外れにされた」と弟は言いました。

実はお兄ちゃんの食物アレルギーのため、弟はファミレスどころか、外食もしたことがない、という状況でした。それを聞いてショックを受けた母親は、父親と相談して、弟を1度ファミレスに連れて行くことに決めました。そして、ある日家族4人でファミレスに行き、席に着きました。すぐに店員が注文を取りにきました。母親は店員に、「日替わりランチ2つとお子様ランチを1つ下さい」と頼みました。 すると店員は、「お子様ランチ1つですか？」と尋ねました。

母親は、
「はい、1つでお願いします。下の子がファミレスに行ったことがないとクラスでからかわれてしまって…。一度ぐらい連れてきてあげてもいいんじゃないかって思って連れてきたんです。 と言うのも、上の子が食物アレルギーで食べるものを制限されているんです…。それでも子供たちには、できるだけ不自由な思いはさせたくないと思って連れてきました。さらに失礼なお願いなのですが、上の子には家から持ってきた、これをここで食べさせてもかまわないでしょうか？」
と、母親はかばんから食材の入ったタッパーを取り出しました。

当然ファミレスに食べ物を持ち込むということは、食中毒などの店側の衛生管理上の問題により、本当はダメだということは母親にもわかっていました。ここで断られたらどうしようかと、母親はひそかに思っていたのです。
店員は「そうですか…」というと、「私にそのタッパーを渡してください」と母親に言いました。
母親は「えっ」と思い、やっぱりダメか…と落胆しながら店員にタッパーを渡しました。
しばらくして両親が頼んだ日替わりランチと、国旗が付いている弟のお子様ランチが出てきました。
弟は喜んでいますが、両親は素直に喜べませんでした。



ですが、次の瞬間、もうひとつの料理が出てきたのです。それはまぎれも無く、あのタッパーの中の料理でした。綺麗に盛り付けされ、真ん中には国旗が付いています。

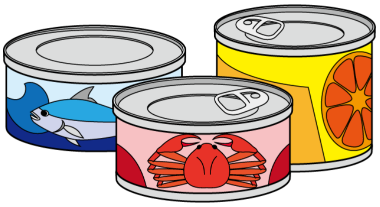
「はい、 これがお兄ちゃんのお子様ランチだよ」

その店員の思いがけない言葉と嬉しそうに喜んでいる兄弟の姿を見て、両親は涙が止まりませんでした。

食いしん坊のひとり言　：「缶つま(缶詰おつまみ)」

このところ人気を集める缶詰。数年前、”家飲み”が増えた頃から、”缶つま”(缶詰おつまみ)なる言葉がよく聞かれるようになりました。また東日本大震災以降、電気不要で長期保存できると缶詰の良さが見直され、家庭での備蓄率も上がっているとのこと。確かに、震災直後は我が家も缶詰のお世話にたくさんなりました。

日本の缶詰の歴史は、1877年(明治10年)10月、北海道開拓使が石狩に鮭の缶詰工場を設営したのが始まり。「鮭缶」が元祖缶つまになるんですね！！　ちなみに、私は「缶詰でお酒」というスタイルが大好き。出張の際はコンビニから缶詰と缶ビール、缶ハイボールを買い込んで、部屋でノンビリと缶詰ディナーを楽しむこともしばしばです。 私の“缶詰四天王”は、「鯖味噌煮」、「牛肉大和煮」、「カニみそ(かに肉入り)」、「イカ味付け」。 全てコンビニで手に入るお手軽な物ばかりです。ご飯で食べても美味しいし、お酒のおつまみにもなる缶詰は、主婦にとっても強い味方かもしれませんね。 ところで、お店で缶詰を提供する「缶詰居酒屋」や「缶詰バー」があることをご存知ですか？　昨年、壱弐参(いろは)横丁に缶詰バー「mr.kanso(ミスターカンソ)」仙台店がオープンしました。店内壁際に置かれた棚から缶詰を自由に選べるのが特徴。魚介類・肉製品・サラダ・スープ・カレー・パン・ご飯・珍味・デザート・フルーツなど、国内の商品を中心に常時約230種類を提供してます。シックなお店でサバ缶味噌煮を食べるのもオツですよ！



土屋　敬のおすすめグルメ情報　：「　洋食屋OBARA　おにおんとまと　」

仙台駅東口、会社のすぐ近くにある大好きな洋食屋さんを紹介します。今回、ご紹介させていただく『おにおんとまと』(洋食屋OBARAが前につくとは知りませんでした)のメインは、ハンバーグ。定番「ハンバーグ定食」は文句なしの美味しさですが、私があえてオススメしたいのは「オムハンバーグ」と「ハンバーグナポリタン」。毎回どちらを食べるのか迷ってしまうほど、どちらも美味しいです。以前はピラフもあり、「ハンバーグピラフ」がイチオシだったのですが、海老の高騰によりメニューから外れてしまいました。早くメニューに復帰して欲しいと強く思います。こちらのハンバーグは豚肉100%で歯触りがソフト。お子さんや年配の方でも食べやすいのが特徴です。オムライスのケチャップライスとふんわりタマゴの相性も抜群！ また、ナポリタンも昔ながらのケチャップ味で、もちもちパスタとハンバーグが絶妙に合うんです！ ぜひ、仙台駅東口まで足をお運び下さいね。　TEL：022-349-8588

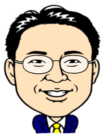
TT　Times・編集室

～あとがき～

東日本大震災から丸6年が経ちました。今なお12万7千人の方々が避難生活を余儀なくされていることを知り、愕然としました。多くは原発避難の方々とのことですが、住み慣れた故郷を離れて暮らす苦しみや寂しさは、想像を超えるものだと思います。　今回は当時小学4年生だった女子児童の手紙を取り上げさせていただきました。避難所での生活の様子に胸が熱くなったのは私だけではないのではないでしょうか。

「当たり前」の生活に慣れてしまった今。「当たり前」の生活に感謝して生きたいものです。ちなみに、当たり前の対義語をご存知ですか？　当たり前とはあることが常のもの。あることが常でない、つまり難しいもの。それは、あることが難いもの、“あり難きもの”です。あり難きものとは、ありがたいもの。つまり“ありがとう”ということ。　“感謝”です。　　　　　　　　　(土屋)

ソニー生命保険株式会社
仙台ライフプランナーセンター第2支社
ライフプランナー　土　屋　　敬
〒983-0852　仙台市宮城野区榴岡4-2-3
仙台MTビル15階　TEL　022-296-5472
携帯　090-9538-2463
takashi_tsuchiya@sonylife.co.jp
SL16-3630-0155



ホームページリニューアルしました！「土屋　敬」で検索！